

平成18年度 個に応じた指導を充実させるための指導方法に関する調査研究

本調査研究における「個に応じた指導」のとらえ方

研究テーマ

「我が国及び諸外国の美術文化についての関心や理解を深める鑑賞指導の工夫・改善」

研究の視点

美術科の目標をふまえ、生徒の学習意欲を高め、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるために、各教科で学習している内容と美術科との関連を見出し、生徒が学んだ知識や技能の結びつきを図り、「個に応じた指導を充実させるための指導方法に関する調査研究」を行う。

- 1 生徒の意欲を高める鑑賞指導の工夫・改善のため、美術科と各教科の学習内容の関連性を検証する
- 2 個に応じた指導を充実させるための題材開発と授業実践、及びその成果について検証する
- 3 我が国の美術文化に視点を置き、生徒一人一人の学習過程を大切にしたい指導方法を検証する

中学校美術科

調査研究の手だてと実践事例

□成果と■課題

1 「私は着物のデザイナー」
[第2学年及び第3学年鑑賞の目標及び内容]
(ア)(イ)(エ)の内容を中心に授業実践を行う
「和服を着よう」実物による体験学習、「和服鑑賞カードを制作しよう」「日本美術の学習発表会を開こう」

生徒一人一人が日本美術の美しさを感じ取ることができた
日本美術の魅力をさらに発展させるような題材開発の必要性。

2 「五重塔はなぜ美しいか」
[第2学年及び第3学年鑑賞の目標及び内容]
(イ)(ウ)(オ)の内容を中心に授業実践を行う
「国語で学習した内容を参考し、五重塔の構造と日本人のもつ美意識を学ぶ」「制作～発表を通して先人のメッセージを感受する」

技術面だけでなく、鑑賞活動を通して「心」に訴えかける指導が実践できた
生徒の興味関心を高める鑑賞資料の充実。

3 「出会い・感じ・知り・伝える」
[第2学年及び第3学年鑑賞の目標及び内容]
(ア)(ウ)(エ)の内容を中心に授業実践を行う
「日本及び西洋の作品から興味関心をもったものを選び、調べ学習～制作をする」「鑑賞する場の設定も生徒自らも手で行う」

自分の見方や感じ方に基づいて美術作品を鑑賞する喜びと楽しさを感じることができた
調べ学習に必要な様々な美術作品(平面、立体)

4 「ダ・ヴィンチコードに挑戦」
[第2学年及び第3学年鑑賞の目標及び内容]
(ア)(ウ)の内容を中心に授業実践を行う
「短歌のイメージに合った絵画作品を選択する」「二つの作品を結びつける物語を設定し、鑑賞ワークシートにまとめる」

現代短歌作家の感性と生徒たちの心が一致した授業となった
他の教科で学習した内容を美術でも生かして確かな学力を身に付ける。

美術科

1 はじめに

平成15年の学習指導要領の一部改正等の趣旨は、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、各学校の裁量により創意工夫を生かした特色ある取組を行うことにある。また、生徒に知識や技能はもとより、学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの「確かな学力」を育成し、「生きる力」をはぐくむという学習指導要領のねらいの一層の充実を図ることにある。

美術科では、教科の目標を具体化するためにも、個に応じた指導を柔軟かつ多様に導入する工夫をすることによって、生徒一人一人の学習意欲を高めることに視点を置いた。

授業で学んだ様々な知識や技能を剥落させることなく、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるとともに、学んだ知識や技能と生活との結び付き、思考力・判断力・表現力などの相互の関連付け、深化・総合化を図ることも大切な視点としながら、下記のような調査研究を行った。

2 調査研究の視点

美術科の目標をふまえ、生徒の学習意欲を高め、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てるために、各教科で学習している内容と美術科との関連を見出し、生徒が学んだ知識や技能の結び付きを図り、「個に応じた指導を充実させるための指導方法に関する調査研究」を行う。

- (1) 生徒の意欲を高める鑑賞指導方法の工夫・改善のため、美術科と各教科の学習内容の関連性を検証する。
- (2) 個に応じた指導を充実させるための題材開発と授業実践、及びその成果について検証する。
- (3) 我が国の美術文化に視点を置き、生徒一人一人の学習過程を大切にしたい指導方法を検証する。

3 研究テーマ

『我が国及び諸外国の美術文化についての関心や理解を深める鑑賞指導の工夫・改善』

(1) 研究テーマ設定の理由

これまでの美術教育では、鑑賞は表現と一体的に結びついた関係にあり、鑑賞だけを取り出して行うのは知識のみの教育になりやすく、好ましくないという考えが多く見られた。しかし、本来鑑賞という行為は美術作品のよさや美しさに感動して心をより豊かにし、作品との対話をとおして多くのものをそこから学び取ろうとするものである。決して知識の詰め込みを強要するものではない。鑑賞は、生涯教育という視点からも今日大きな課題となっており、その意味でも美術教育の重要な基礎であり、独自の学習としての鑑賞を充実させる必要がある。

学校教育である美術における鑑賞指導のねらいは、次の3点である。

美術文化の作品のよさや美しさ、創造的な知恵などを豊かに感受できる感性
美やよりよい精神を求めて生きる人間の生き方や創造力への共感
地域、民族、国などの文化の理解及び芸術文化の継承と創造

今回の調査研究では、鑑賞指導の中でも、我が国の美術文化について焦点を絞り、日本美術の変遷やその特質を学ばせる資料や作品などを取り上げる。生徒の主体的な鑑賞を進めるためにあらかじめ選定した題材の範囲の中で、生徒の興味や関心に合わせた鑑賞作品を選択させたり、同じテーマで表現した複数の作品を比較させるなどして、より深く鑑賞させることができると考え、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るための方策

生涯学習という視点から、独自の学習として鑑賞指導を充実させる

生涯学習の視点で見たとき、美術を愛好する心情から美術作品の美しさに感動を味わい、文化の違いとよさを理解する鑑賞活動は、表現活動以上に身近に親しんでいる活動となっている。このような鑑賞活動は、表現活動の参考としたり、表現活動を補完するという扱い以上に、それ自体が独立した大切な美術の学習活動であると考えた。

生徒の興味・関心を高める鑑賞題材の選定

鑑賞する対象の選定では、「鑑賞活動が表現活動へ発展できるような選び方」「文化遺産を大切にすることや生活と人間とのかかわりについて関心をもたせること」「作者の表現に共感し感動を共有すること」などがある。特に、日本及び各地域に残されている美術を重視して扱うとともに、日本の伝統的な行事や季節に合わせた造形の鑑賞など、生活に根付いているものも積極的に取り上げるようにした。

積極的な鑑賞学習を展開する

鑑賞指導の中で大切なことは、作品を網羅的に取り上げるのではなく、生徒の主体的な鑑賞を進めるためにあらかじめ選定した題材の範囲の中で、生徒の興味・関心に合わせて鑑賞作品を選択させたり、同じテーマで表現した複数の作品を比較するなどして、より深く鑑賞させることが必要である。また、生徒一人一人が感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を自分なりの見方で適切に表現できる「鑑賞ワークシート」を制作したり、生徒同士で発表し批評し合う機会をつくったり、自分の気付かなかった作品のよさを発見したりして、一層深く鑑賞させることのできる授業を展開していくことを目的とした。

4 実践事例

指導事例 1

中学校第2学年 題材名「私は着物のデザイナー」

[第2学年及び第3学年の鑑賞の目標及び内容]

(ア)(イ)(エ)の内容を中心に調査研究・授業実践を行う。

- ・「和服を着よう」実物による体験鑑賞、「和服の鑑賞カードを制作しよう」鑑賞カードの制作と鑑賞ワークシートへまとめる、「学習発表会を開こう」お互いの学習交換会

指導事例 2

中学校第2学年 題材名「五重塔はなぜ美しいか」

[第2学年及び第3学年の鑑賞の目標及び内容]

(イ)(ウ)(オ)の内容を中心に調査研究・授業実践を行う。

- ・国語で学習した内容を参考にしながら、五重塔の構造を学ぶ、グループで五重塔を制作する、五重塔に込められた先人のメッセージをグループ毎に発表する

指導事例 3

中学校第3学年 題材名「出会い・感じ・知り・伝える」

[第2学年及び第3学年の鑑賞の目標及び内容]

(ア)(ウ)(エ)の内容を中心に調査研究・授業実践を行う。

- ・日本及び西洋の作品の中から興味・関心をもった作品を選び調べ学習をする、鑑賞するにふさわしい校内の場所を選定し、自分のイメージに合ったコメントを入れる

指導事例 4

中学校第3学年 題材名「ダ・ヴィンチコードに挑戦」

[第2学年及び第3学年の鑑賞の目標及び内容]

(ア)(ウ)の内容を中心に調査研究・授業実践を行う。

- ・短歌のイメージに合った絵画を選択し、二つを結びつけるストーリーを考える、短歌・鑑賞ワークシートとしてまとめる

2年美術 個に応じた手だてシート

平成 18年 月 日 ()

第5校時 13:35 ~ 14:25 (50分)

題材名 私は着物のデザイナー・鑑賞

今日の授業の目標

楽しく主体的に授業に取り組み、和装着物の「用の美」を通して日本美術のよさや美しさを感じ取り、そのおもいをこれからの制作に生かそうとする関心・意欲を喚起する。【関心意欲態度】【鑑賞】

使用する教材・教具

教師 参考資料(和服の実物、 選択作品カード資料)
画用紙、マジック、のり、
生徒 筆記用具、感じる心、

授業の流れ

- 1 課題の把握と生徒との対話
 - ・日本の美しさに焦点をあてて考える
 - ・日本に伝わる工芸美術「用の美・生活の美」を知る
- 2 鑑賞 体験鑑賞
「和服を着よう」
 - ・代表者2名(男女各1名)が和服を羽織る。
 - ・色柄や材質の異なる帯をあて、その違いやよさを感じながら和装の美しさを知る
 - ・実物からより印象的な感動を受ける
- 3 鑑賞 作品カード鑑賞
「着物を選ぼう」
 - ・選択用の作品カード資料(150種類各1枚×6班)
 - ・個々の感性や興味に応じて和の美を味わう
 - ・画用紙に選んだ作品をはり、じっくりと鑑賞しタイトルなどをつけて制作シートに仕上げる
- 4 鑑賞 相互鑑賞
「友達の感動を知ろう」
 - ・班内で選択鑑賞の用紙を回覧し、コミュニケーションする
 - ・選択鑑賞の用紙を展示する

個に応じ具体的な手だて

- 1 課題把握などの全体指導で個々が自分の考え・思いを広げられるために、事前に工芸品や日本美術の資料を展示する
- 2 作品と出会う感動をより印象的にし、個性に応じて多角的に味わえるように、色柄や材質の異なる多様な和装の実物を準備して鑑賞をする
- 3 個々の感性に応じて味わえるように、時代や用途目的など幅広く資料を選択し、カードとして準備する
- 4 生徒が生涯を通じて作品との出会いを大切に、本授業で受けた感動を生かしていけるように、選択鑑賞の用紙をシート作品にする

評価の規準

【関心意欲態度】
主体的に日本美術のよさについて考えようとしている(授業観察より)

【鑑賞】
意欲的に鑑賞し、よさや美しさを味わおうとしている(授業観察、鑑賞の感想より)

【鑑賞】
柔らかな感性で自分なりによさや美しさを味わうとともに、友達の意見や感動を通しさらに広く鑑賞をしようとしている(授業観察、制作シートより)

第2学年美術科学習指導案

指導者 市立 中学校

1 題材名 『 私は着物のデザイナー 』 ～日本の美を体験～

2 題材について

これからの時代を生きる子どもたちは、国際化の時代において、さまざまな文化をもつ諸外国や民族との交流がこれまで以上に頻繁になり、自国の文化のよさを外に向かって発信する機会が多くなると考えられる。自国の文化を十分に理解しないで他国の文化を理解することは一面的であり、自国の文化に愛情や誇りを感じることなくしては他国の文化を尊重する心も芽生えにくい面がある。

今回、授業行う2学年の生徒は、制作過程での発見や知識の習得に素直に喜びを感じることができ、作品のもつよさや美しさについて豊かに感受できる子が多い。

しかし、4月当初アンケートでは、美術館や博物館に行き鑑賞した経験は少ない。また、個々におもいや考えを深めることには積極的だがそれらを発表し意見交換をすることを苦手とする傾向も感じられる。本題材では、四季折々の自然の美しさや暮らしの中での小さな美しさを、日常生活にとりいれて豊かな人生を創造してきた日本美術の一つである「和装着物」に焦点を当てた。子どもたちが、それぞれの個性に応じて祖国の文化の価値や美しさを感じ、思いを交換し合う中で自分の感動に自信をもつ力をはぐくみたい。そして、生涯にわたって日本の文化のよさを生かしながら日常の生活を豊かに創造し、生きていく姿勢と心を養いたい。

3 育てたい能力・態度等（題材の目標）

- (1) 日本美術のよさや美しさを生かし、創意工夫して自分らしい日本の「美」を追求しようとする姿勢
- (2) 自然や日本美術のよさ・美しさから豊かに発想し、色や構図などに工夫して表現する力
- (3) 画面構成やポスターカラーの基本習得と、意図に合わせて素材や用具を選択し美しく表現する力
- (4) 日本美術のよさや美しさを豊かに感受する感性と、思いや感動を伝達し合おうとする態度や力

4 生徒を見つめる視点【評価の観点】

- (1) 自らすすんで日本美術のよさを発見し、主体的に取り組み、自分らしい日本の「美」を追求しようとしている。 【美術への関心・意欲・態度】
- (2) 様々な発想材料から豊かにイメージを広げ、色や構図など具体的に構想して表現する。 【発想・構想の能力】
- (3) 画面構成やポスターカラーの基本を習得し、意図に合わせて工夫して表す。 【創造的技能】
- (4) 日本美術のよさや美しさを豊かに感受しようとするとともに、おもいや感動を感じ取る。 【鑑賞の能力】

5 本題材の授業準備

- (1) 授業者：参考資料（和服の実物、選択作品カード資料、生徒作品）、鑑賞画用紙、マジック、のり、制作ノート、制作用紙、制作自由素材、
- (2) 生徒：美術セット（色鉛筆、ポスターカラー）、教科書、資料集、制作自由素材、筆記用具、

6 本題材の指導計画・主なはたらきかけ

学習の流れと内容	指導・はたらきかけのポイント
導入（1時間） 本時の授業 日本美術の鑑賞、イメージワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・日本美術のよさや美しさを体験的に鑑賞し、意欲を喚起する。 ・それぞれの個性やおもいの違いを大切にした鑑賞にする。
スケッチ（1時間） 自然探索、観察スケッチ、	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の感性に応じて自然の美しさやおもしろさを探し、それを味わいながらスケッチをし、デザイン構想の材料にする。
デザイン構想（2時間） 構成・構図の基本、色の学習、	<ul style="list-style-type: none"> ・集めたスケッチなどの構想材料をもとに、デザインを考える。 ・日本美術の色や構図の工夫を学び、イメージの表現に生かす。
制作（4時間） レイアウトデザイン、 デザインの彩色技法、	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を想定したレイアウトの工夫をする。 ・ポスターカラーのデザイン的な基本技法を学ぶ。 ・自由に制作素材を選択し、イメージを伝える創意工夫をする。
小発表・発表準備（1時間） おもいのまとめ、プレゼンテーション計画	<ul style="list-style-type: none"> ・班内で小鑑賞をし、友達の意見を生かして発表の工夫をする。 ・イメージを伝達アピールするためによりよいプレゼンテーション計画を考え、その準備をする。
プレゼンテーション発表 （1時間）相互鑑賞、	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に自分のイメージやおもいをみんなの前で発表する。 ・相互鑑賞し、作品を通じたコミュニケーションを楽しむ。

7 本時の学習（1 / 10 時間目）【 】…生徒を見つめる観点（評価の観点）

（1）目標 楽しく主体的に授業に取り組み、和装着物の「用の美」を通して日本美術のよさや美しさを感じ取り、そのおもいをこれからの制作に生かそうとする関心意欲を喚起する。

【関心意欲態度】【鑑賞】

（2）事前準備 教師：参考作品（和装の実物、選択作品カード、）マジック、のり、色画用紙
生徒：筆記用具、体操着、感じる心

（3）展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	評価の観点（手立て）	備考
	教師の提案 【 】予想される生徒の反応	板書 1…3つの達成目標「学力」（書く） 2…3つの達成目標「規律ある態度」		
課題把握	あいさつ 参考作品の鑑賞と本時の説明（全体） 「日本の美しさってなんだろう」 …生徒の挙手発言と対話 【季節、自然、風景、わからない】 「日本の美術をみてみよう」「どう感じるかな」「特徴は何だろう」 …工芸美術の提示、教科書 p.31 鑑賞、 生徒の挙手発言と対話 【色々あるんだなあ、 が好き】 【使えるものが多い、自然のものを生かしている、わからない】 「和装着物の日本美に注目しよう」 	けじめをつけ授業規律をととのえる。 2 日本美術の美しさや特徴について考えながら本時の課題を把握する。 日本の美しさ（生徒の発言を板書） ・季節 ・自然 日本美術の特徴（生徒の発言を板書） 漆器 焼き物 竹細工 着物 屏風 ・色々な種類がある ・生活で使えるものが多い		10分
			主体的に授業に参加し、日本美術のよさについて考えようとしている。（授業の観察）	

和装着物の体験的な鑑賞（全体）
（実物の着物）

「着物をみてみよう」「着てみよう」
…生徒に着物を着せてみる（2人）
〔恥ずかしがりながら楽しむ〕
「着る前と後に、どんな変化を感じたかな」…生徒の挙手発言と対話
〔違うイメージになった、見えなくなった模様があった、わからない〕



表者2名（女1男1）に着せる

楽しく本物から強い感動を味わう。
自分の受けた感動を発表させ、自由に思いを広げることに自信をもたせるための対話・助言をする。

主体的に授業に参加し、よさや美しさを味わおうとしている。（授業の観察）



柄の多様な帯をあわせて比べてみる

15
分

和装着物の個々に応じた鑑賞（個々・班内）
（選択鑑賞用のカード）

「カードから美しい・よいと感じる作品を選んでみよう」
…鑑賞カードを鑑賞用紙に添付、
〔自分の好きな作品カードを選択〕
「どこがいいのかな。何で選んだのかな」「何が描かれているかな」
〔鑑賞用紙におもいを書く〕
「班のみんなと鑑賞し合ってみよう」
〔コミュニケーションしながら思いを共感したり理解を広げる〕

個々の興味に応じて作品のカードを選択し、それぞれの個性に応じた自由な鑑賞をうながす。

なかなか選択できない生徒には、活動時間を確保するために早期に声をかけ問題解決をはかる。

自分の感動や思いを書くことで明確化し、自己確認する。

コミュニケーションしながら楽しく友達の感動を味わい、様々な作品のよさや美しさを鑑賞する。

柔らかな感性で自分なりによさや美しさを味わうとともに、友達の意見や感動を通しさらに広く鑑賞をしようとしている。

（授業観察、制作ノート） 1

20
分



こんなにもいろんな着物があるとは思わなかった！
日本人ですごく良かったなって感じた。もっとゆっくりと見てみたかった。
もう一回見てみたい！

	<p>様な作品カードを鑑賞し、個々の感性や興味に応じて選ぶ（1班150種類）</p> 	<p>書いた作品を制作シートにはり、タイトルや鑑賞したことを書く</p> 	
<p>まとめ</p>	<p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>友達と協力し合って片付け整頓 今日のふりかえりとこれからの授業</p> </div> <p>鑑賞した思いを発表 あいさつ</p> 	<p>本授業を評価し、次回の制作授業への意欲をかきたてる。</p> <p>片付けまで責任をもち、規律正しく授業に参加している。（授業の観察） 2 けじめを持ち、楽しめる授業規律を整える。 2</p> 	<p>5分</p>

8 授業前の指導



様々な着物資料の掲示物



工芸美術の実物を展示



日本美術と西洋美術の関わりについての展示

9 授業後の生徒の言葉

(1) 本授業のシート作品より

タイトル「夜に舞う鳳凰」美しい！梅と鳳凰、お正月に着る

タイトル「サンバ10」こんな着物みたことない、ただの日本風じゃなくてすごい

タイトル「地球」永遠に続く空や海の色をえがいていると思う、みていてホッとする、きれい！

タイトル「春の祝宴」成人式の時に私が着たい、桜が春の風で舞っている風景、空の色の帯をする

タイトル「飛翔」大きな鳥が羽を広げて今にも飛びたとうとしているような感じ、着た時に全部の
絵がつながる工夫がすごい、心のきれいな人に着てもらいたい

タイトル「夕暮れ」日がくれても草のところで蝶がとびまわっている気分になれる

タイトル「美しい夜」黒い全体の上にピンクの色がとても好き、下の方にとんでいるきれいな鳥が
なんとなくいてキレイ、少し大人っぽくみせるときに着る

(2) 授業後の感想アンケートより

楽しかった：30人(全員)・・・実物鑑賞が楽しかった：29人、選択鑑賞が楽しかった：20人
こんなにいろんな着物があるとは思わなかった。

日本人でよかったー！

すごく楽しくて時間があっというまだった(もっとゆっくり見ていたかったし、書きたかった)
私も着たかった。

着物を着るのに選ばれたときはびっくりして緊張したけど、すごくかっこよくてヤッターって感じ
だった。

展示作品をみて

同じ作品でも色んな感じ方(タイトル)があった。

自分が選ばなかった作品を選んだ人の言葉に興味がふくらんだ。

作品が同じでも画用紙が違っていると違ってみえた。

タイトルがみんなおもしろい。もっと時間が欲しかった。

個に応じた指導を充実させるための指導方法の工夫改善 中学校美術科実践資料

鑑賞：私は着物のデザイナー（日本の美を体験）

和装着物鑑賞シート



- 「カードから美しいと感じる作品を撰んでみよう」鑑賞カードを鑑賞用紙に添付（自分の好きなカードを選択）
- 「どこがよいのかな・何で書いたのかな」
- 「何が描かれているかな」（鑑賞用紙に自分のおもいを書く）
- 「班のみんなと鑑賞し合ってみよう」（コミュニケーションを通して、互いのおもいを共感する）

2年美術
個に応じた手だてシート
平成18年月日()

第5校時 13:35~14:25 (50分)
題材名「五重塔はなぜ美しいか」

今日の授業の目標

- ・「自分たちの作品を発表する」
- ・「塔に込められた先人のメッセージを読みとる」

使用する教材・教具

教師 観賞用パネル
生徒 試作した作品・「表現と鑑賞」美術資料集

授業の流れ

- 1 五重塔の秘密や美しさのポイントを確認する
(国語で学習したことを生かす)
- 2 グループごとに制作した五重塔を発表する

- ・ 全体、重箱構造
- ・ しんばしら
- ・ 屋根
- ・ はめ込み接合
- ・ 九輪
- ・ 水煙

- 3 発表に対する感想を述べあう
- 4 美しさに対する感じ方の違いを知る。
- 5 塔に込められた先人(日本人)のメッセージを読みとる

- ・ なぜ五重塔を造ったか
- ・ 作者の時代はどんなか
- ・ 日本人はどこに美しさを感じるか

個に応じた具体的な手だて

- 1 自分が感じた美しさを鑑賞ファイルに記入する
(国語の学習から学んだことも参考に。国語の先生と連携しながら)
- 2 同じ部分に感動したメンバーでグループを編成する
 - ・ 技能的に個人での制作は難しいが、グループで役割分担し、制作する
 - ・ 一人で制作できる者は一人で制作しても可とする
 - ・ 発表もそのグループで行う
 - ・ 発表の仕方は、グループで相談し、工夫する
- 3 他グループの作品を鑑賞しながら、自分たちには無かった感じ方を話し合う
- 4 各自の「鑑賞カード」に自分と他の人との感じ方の違いを記入する
- 5 昔の日本人の気持ちになって、自分に想像できるメッセージを読みとり、一人一人発表する
 - ・ 友達の意見を聞きながら鑑賞を深めていく

評価の規準

- ・ 自分が持った最初の印象(五重塔に対する美しさ)を明確にする
- ・ 自分の感じた美しさのポイントを指して意欲的に制作している
- ・ 意欲的、効果的に発表しようとしている
- ・ 他の人の感じ方を感じ取ることができる
- ・ 日本建築の良さや伝統、そこに暮らしてきた人々の思いを理解する
- ・ 第一印象から、制作～発表と、各学習の過程ごとに鑑賞を深め、美と機能性とのかわりに気付く

第2学年美術科学習指導案

指導者 市立 中学校

1. 題材名 「 五重塔はなぜ美しいか 」

2. 題材について

(1) 教材観

日本の代表的な建築物の一つ、五重塔を扱う。現代の生徒たちは、西洋風の美は受け入れても東洋の美・日本の美に関しては、無関心だったり否定的だったりすることが多い。しかし、日本の文化を深く掘りさげていき、先人達のつくりあげた「美」を見つめ直すことは、私たちのルーツの再発見でもある。日本文化を継承する者として、我々が忘れかけている美しさやすばらしさを再発見させたい。

(2) 生徒観

中学2年生は、1年生の時に比べ学校生活にも慣れ、毎日の生活も充実してくる。しかし、心も体も成長が目覚ましいこの時期は、様々な悩みが生じたり、毎日の生活や授業にマンネリ感さえもつ。どちらかという素直に自分の感情をコントロールできない場面によく出くわす。そこで、「心の教育としての美術の教科性」をおさえ、生徒の自己実現を図り、生涯にわたり愛好していく心情を育成することを目指す。

(3) 指導観

これからの鑑賞活動では、豊かな自然や生活の中に見られる造形作品、地域の文化遺産・文化財、美術館の作品などさまざまなものとの出会いを通して、積極的によいもの、美しいものや人間が大切にしてきた価値などを発見し育てていくことが重要になってくる。2学年では、国語の授業で、「五重塔はなぜ倒れないか」という題材を学習している。今回は、国語で学んだことを軸に、五重塔について、さらに鑑賞を深めた授業を展開する。

3. 学校課題や3つの達成目標との関連

現在の我が校の現状と学校課題での取り組みを考えると、積極的に挙手する姿勢や自分の意見を大きな声で発表できる力などに不足を感じる。そこで「確かな学力の定着を図る学習指導」の確立を目指して研究を推進してきた。

こうした中での鑑賞の学習であるが、学校教育目標「夢に向かって学び、鍛える心豊かな生徒」の実現も考えたとき、一人一人の生徒の学びや成長なくして不可能であると確信した。それには常に「個に応じた指導」がポイントと考え、単なる感想の発表ではなく、国語の学習で一通り五重塔の秘密に迫った後、さらに深く「建築者はどうしてこのような建築をしたのだろうか?」とか「建築者(たち)の生きた時代はどの様であったのか?」などを掘りさげ、対話していこうと考えた。自分たちとの関わりや伝統を守り伝えてきた人々の思いを意欲的に解釈し、主体的に判断・問題解決していければ工夫ある鑑賞の学習ができると考えたのである。

4. 題材の目標

(1) 意欲・関心・態度 美術文化の大切さについて関心をもつ

(2) 発想や構想 日本の建築の伝統やそこに暮らしてきた人々の思いを考え、自分のイメージを広げる。

(3) 創造的な技能

五重塔の建築の特徴を理解し、その美しさを味わう。

(4) 鑑賞

美術と自分たちのかかわりについて考えたり調べたりしたことを話し合う。

5. 指導計画と評価規準

学習の流れ	学 習 活 動	指導者のはたらきかけ	評価規準
第1次 (50分) 五重塔の 秘密や美 しさにつ いて話し 合う	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科書で学習したことやインターネットで調べた五重塔を見て、感じたことを発表する。 ・形・色や技法の工夫を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これを作った人はどんな気持ちで作ったのだろうか？ ・西洋の建築とどこが違うのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築の特徴やその伝統、五重塔の意味を調べ、理解しようとしている。
第2次 (150分) 制作	<ul style="list-style-type: none"> ・五重塔の美しさを自分なりに紹介するカードや模型を作る。 ・自分たちの作品を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感じたことを最も適切な方法で表現する。 ・材料や技法を工夫して制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの解釈をし、それを作品にまとめる事ができる。 ・作った人の気持ちに関心を持ち、想像する。
第3次 (50分) 鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品を鑑賞し、よさや自分の作品との違いに気付く。 ・塔に込められた先人のメッセージを読みとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の感じ方が違うことに気付かせる。 ・美しいという観点(日本人が感じる美しさ)で心がふるえるようなものは何か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に鑑賞し、友達作品の良さを理解できたか。 ・自分の作品との違いに気付く。 ・自分の考えをみんなの前ではっきりと発表できる。
第4次 (50分) 自分が残 したい文 化や美術	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも残って欲しいと思う文化財を考える。そしてなぜそう思うのか、自分なりの答えを探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本美術と自分とのかかわりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の心が揺さぶられる文化財が見つかったか。

五重塔を制作する



6. 本時の学習指導

- (1) 目標 ・自分の感じた五重塔の美しさを他の人に分かるように紹介する 5 / 6
 ・塔に込められた先人のメッセージを読みとる。

(2) 展開

学習の流れ	学 習 活 動	授 業 形 態	指 導 者 の は た ら き か け 発 問	評 価 規 準	準 備
把握 (5分)	1 美しさのポイントを再確認する。	一斉	「五重塔は、どこが美しいですか？」	関し しっかり聞いている。	五重塔の図
展開1 (20分)	2 各班ごとに発表する。 班ごとに発表する。 班で役割分担して発表する。 美しいところがはっきり伝わるように発表する。 どの班がよくできているか見ながら発表を聴く。	グループ	「美しいと思う場所によってグループ分けしました。 自分たちの作品を発表してください。」 「美しいところが、はっきりと表現できている班を選んで下さいさい。」	発工夫して発表している。 鑑他の班の発表をしっかりと聴く。	鑑賞発表ノート 評価カード
展開2 (15分)	3 友だちの作品から感じ方の共通点や違いを知る。 自分との感じ方の共通点から大きな鑑賞のポイントを見つける。 違いを知り、良いところを発表することで様々な感じ方があることを理解する。	個	「班の発表を聴いて、友達の感じ方について自分と同じだったり、違った感じ方と思ったことを発表してください。」	関積極的に共通点や違いを発見しているか 技自分の作品を評価する。	鑑賞発表ノート 評価カード
まとめ (10分)	4 日本建築の伝統やそこに暮らしてきた人々の思いを考え、話し合う 日本文化の継承者として積極的に日本の美を理解し、受け継ぐ態度を育てる。どんな時代だったか 日本の昔の人々の思いを考える。 日本人は何を美しいと考えるか？	グループ 個	「作者たちが生きた時代はどのようなであったろうか？」 聖徳太子？ 仏教？ 「作者はどのようにしてこのような建築をしたのだろうか？」 「外国の建物とどこが違う？」 「日本人はどこに美しさを感じるのだろうか？」	鑑五重塔の美しさを十分読み取れたか。 関日本の文化についてしっかり考えられたか。	鑑賞カード 評価カード
	5 次回への課題 これからも残ってほしい文化財とはどんなものか？	一斉	「日本美術と自分たちのかかわりってなんだろうか？」		

7. 備考 在籍生徒 男子18名 女子14名 合計32名

5 おわりに

【成果】

- ・今回の「鑑賞」の授業では、今までにない取組ができた。生徒作品の鑑賞を中心に行ってきたが、「鑑賞」をメインにした授業は初めてだった。そのため、大がかりな掲示を作ったり、資料を用意したりといった環境整備が充実した
- ・作品制作とはひと味違った生徒の能力を発見できた。感じ取る力は技術面だけではなく「心」の働く場面が大いに関わっていることを強く感じた。
- ・「日本の美」に触れることで、子どもたちに文化の継承者としての意識付けが少ないながらもできた。
- ・他教科との関連を図ることで、題材に関しての子どもたちの意識が高められ、題材の深い読みとりができた。

【課題】

- ・一つの題材として扱う「鑑賞」としては制作も取り入れる事は時間的に年間計画の中での位置づけが難しい。それだけに生徒を大きく変容させる鑑賞の題材は教師の十分な教材研究が必要である。
- ・効果的に鑑賞の授業を行うには、日頃から気軽に題材を提示し、定期的に掲示を変え、常に新しい題材を鑑賞させたい。そうすることによって作品の読みとり方が上手くなったり、深くできるようになる。
- ・毎回鑑賞の度に生徒一人一人がどのように変容したかのまとめが人目で分かる資料にまとめ、対話や指導に活用でき、評価もできるよう一体化を図りたい。

個に応じた指導を充実させるための指導方法の工夫改善
中学校美術科実践資料

鑑賞：五重塔はなぜ美しいか（日本美術を学ぶ）

友達の作品から感じ方の共通点や違いを知る



日本人は何を美しいと考えるのか？



日本建築の伝統やそこに暮らしてきた人々の思いを考える



日本美術と私たちのかわりってなんだろう？



2年美術 個に応じた手だてシート

平成18年 月 日()

第4校時 11:15～12:45(50分)

題材名「出会い、感じ、知り、伝える」

今日の授業の目標

作品について感じたことを、人に伝わるように展示・演出しよう。【鑑賞】

使用する教材・教具

教師 観賞用写真掛図・イーゼル・額・名札・その他

生徒 鑑賞レポート・展示演出に必要なもの・筆記用具

授業の流れ

- 1 作品の選出・調べ学習
・選定した作品について夏休みに調査をし、レポートにまとめる
・調べて分かったこと・気になったこと・推理したこと、を明確にする
- 2 面接でのアドバイスをもとに、自分の展示の目的を明確にする
- 3 目的にあわせて、展示・演出の方法を考え、素材を準備する
- 4【本時】
・計画に従って、自分が選んだ作品の展示・演出する
・展示の場所・素材・方法を計画通り進める
・展示を終えた後、名札を記入し、作品に添付する
- 5【相互鑑賞】
・時間外に作品の鑑賞をする
また、自分の作品の管理をする
- 6 展示した作品を片付ける

個に応じた具体的な手だて

- 1 選出した作品、レポート等を通して、生徒一人一人が、作品に対してどんな思いを抱いたかを明確にするために、一人一人に面接によるアドバイスを
する
- 2 作品の捉え方や展示方法に合わせて、生徒一人一人の目標を明確にし、必要な道具や方法をアドバイスする
- 3 生徒が計画した展示の仕方・演出の方法について、目標を達成できるような用具・教材を貸し出す
展示場所等については、鑑賞者の目線や行動を考えながら「見る側」に立った位置をアドバイスする
- 4 他者の作品展示を鑑賞し、自己評価をさせる
・自分の作品に対して責任を持って管理させるよう指導する

評価の規準

- 1 自分が選んだ作品に対して、調べたことを書くだけでなく、具体的にどう感じたか・気になったこと・推理したこと・などを追求しようとしている
【関心意欲態度】
- 2 作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り理解し、見方を深める
【鑑賞の能力】
- 2 作品に対する自分の思いを表現するための演出方法・教材を選定する
【関心意欲態度】
- 3 作者の人間性や生き方、その作品の背景を見つめるとともに、自分の生き方とのかかわりで見方を深める
【鑑賞の能力】

第3学年美術科学習指導案

1 題材名 「出会い・感じ・知り・伝える」(領域：鑑賞 表現)

指導者

2 題材について

鑑賞とは、文化遺産や人々に感動を与え続けてくれる名作に対して、素直な感情で受け止め心を潤わせたり、人間が生み出した“美の創造”の素晴らしさやたくましさや気付いたりすることである。そしてその鑑賞の成果は、その後の生き方に反映されていくことが最終的な目的となる。鑑賞を通して養われるものは、主体的に何かを考えたり、物事に対して理解を深めたりといった、生涯を通して必要な生きる力を育む活動である。しかし、現在の美術科における鑑賞指導はその役割を十分に発揮しているか疑問である。

生徒が作品に触れて主体的に作品を感じようとするとき、先入観や人から借りた発想によって、作品を理解したような感覚になることがある。そこで思考は止まり、その先へ自分の考えを深く広げようとすることは困難である。このことは、生徒自身が作品としっかりと向き合うことを妨げるだけではなく、教える教師側も予想される回答を得られるため、指導した気分に陥るもととなる。今回は、そういった課題を解決するために『自分自身で選んだ作品を、自分自身で調べ理解し、自分自身で展示する。』こととした。

この題材は、自分が選んだ作品について十分に理解し、なおかつ咀嚼していなければならない。また、自分の意図とする演出は、どのような素材を使って表現するのかを考えなくてはならない。したがって、表現活動には今まで学んできた日常の観察力や、素材を発見する能力や表現する能力も必要となってくる。また、この題材は自分自身との対話も必要になってくる。作品を選択するとき、なぜその作品に惹かれたのかを自己分析しなければならない。そして、何を手がかりにして調べていくのかを、自己判断し、調査をし、その中で特に気になった部分を選定していく作業が必要となる。データが出てこないときは、なぜ情報が少ないのかを分析する。そして、その作品を十分に理解した上で、「展示」という具体的な演出(プレゼンテーション)の形にしなければならない。さらに、この題材の活動には、さまざまな形の鑑賞と評価が常に伴っている。演出された作品であると同時に、鑑賞の対象となるものである。作品自体が鑑賞される対象となり、そのまま評価される対象になるという題材を設定した。

3 育てたい能力・態度

- (1) 対象となるものをじっくり観察し、造形の美を見出すことができる力。
- (2) 主体的に題材に取り組み、自分とのかかわりを考えながら自己決定する能力。
- (3) 作者の人間性や創造性を感じ取り理解する力。
- (4) 相互の作品を鑑賞しあい、さまざまな見方を感じ深める能力。

4 生徒を見つめる視点

- (1) 主体的に取り組み、自己決定する姿勢。
- (2) 見方を深めることにより、新たな自己を発見する事ができる発想。
- (3) 作品から享受したものを、演出の表現に取り入れられる技術。
- (4) 作品や演出のよさを一層深く感じるような相互鑑賞する態度。

5 本題材の指導計画・主な働きかけ

時数	学習の流れと内容	学習活動（働きかけのポイント）	具体的評価規準	準備
1	鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 作品の選択 第一印象の分析 自分自身を見つめ、その作品とかかわる心構えを作る。 選んだ作品について、調査をすることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 掲示用美術作品写真の中から、自分が気に入った作品を選び出す。 既成の情報で、先入観を持ちにくい作品を選定しておく。 何故その作品が気になったのか。どんな印象を持ったか。他の作品との違いは何かをワークシートに記入をしておく。 （既成の情報に惑わされることなく、素直な気持ちで、主体的に作品とかかわれるように資料は吟味して選定する。また、自分自身を見つめその作品とかかわる心構え自覚させるために、印象を言葉に残させる。）	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に作品を選んでいるか。 その作品に引かれた理由を分析しようとしているか 【ワークシート】 【発言】	絵画などの大判の写（200枚程度） ワークシート 校内地図
夏休み	鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 選んだ作品の資料集め、調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館やインターネットを使って、選んだ作品や制作者について調べてレポートにまとめておく。（調査の方法は、アドバイスをしておく。） 	<ul style="list-style-type: none"> 経歴や周辺情報を主体的に調べているか。 【レポート・面接】	
1	鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 調査したことの分析 展示の企画を明確にする。 選択場所の選定 	<ul style="list-style-type: none"> 調査の中から、重要だと思われることをキーワードとして選び、演出のポイントとして挙げておく。 展示にふさわしい場所を選ぶ。 場所と演出方法についての計画を立てる。（展示企画がしっかりすることが重要であることを指導しておく。） 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容から展示演出を考えているか。 調査の内容から展示方法を考えているか。 【レポート・面接】	ワークシート 校内地図



1	鑑賞 ・展示についての面接 ・展示企画の確認。	【面接内容】 ・作品の解説 ・演出のキーワードとなる項目 ・演出場所の確認 ・演出方法の確認 上記の項目を、レポートを見ながら、面接して確認する。 (この段階で不十分な企画の生徒にはアドバイスをを行う。)	・作品を主体的に理解しているか。 ・展示方法は、作品にふさわしいものを計画しているか。 ・発想が主体的に行われているか。 【面接・レポート】	レポート 評価用名簿
1	鑑賞 表現 ・作品展示活動 (作品展示期間は、1週間を想定。授業のサイクルで行う。)	・準備した計画に沿って、自身の展示演出を行う。 ・展示責任者カードの記入と設置をする。 ・演出現場の写真を撮る。 ・展示の感想と、展示意図を記録しておく。 (展示中は生徒自身で、作品のメンテナンスを行うよう指示。)	・展示方法は、作品にふさわしいものを計画しているか。 ・活動が主体的に行われているか。 ・鑑賞されることを考えて演出しているか。 【活動の様子・写真】	イーゼル 机・椅子 画紙・テープ 額・ヒートン 責任者カード・ ワークシート デジカメ (ライト)
	鑑賞	・他の人の演出の鑑賞 (休み時間に、他者の作品を見る。他学年や来校者も見られる意識を持たせておく。)		
0.5	まとめ ・会場の片付け	・展示の片づけ・掃除をする。 ・現場を完全にリセットすることで、日常と演出の違いを実感する。 ・展示後の感想を書く。	・しっかり片付けと、振り返りができたか。 【活動の様子】 【ワークシート】	感想用紙

6 個に応じた働きかけについて

(1) 鑑賞 作品の選択

多くの作品の中から選べるように十分に用意しておく。また、作品についての質問は、基本的には答えず先入観を持たずに作品と対面できる環境を整える。

鑑賞 作品の調査

資料を集める方法のアドバイスは、授業の中で行う。作者について・制作された年のその国の状態・その国の文化・モチーフとなっているもの・描かれた技法・題名の意味などからも調査できることを助言する。学校の図書館だけでは不十分なため、近隣の図書館やインターネットの活用も促す。

(2) 鑑賞 作品の調査をもとにした面接

レポートを見ながらの面接となる。質問事項は以下の通り。

<p>調べてみて分かったことは何ですか。</p> <p>この質問は、レポートを見て行ってもいい。ただし、棒読みになるのではなく、内容があいまいでも心に留まっているかどうかを見極めて、発展させる。全てを語らせる必要は無い。</p>
<p>調査の中から演出のきっかけとなることをピックアップしてください。</p> <p>ここでは、調べたことだけでなく推理したことも含め、この作品を使って伝えたいことを選定していく。項目は4つ以下とする。多すぎると焦点が定まらないので、できるだけ少ないほうがよい。ただし、思いつきで選んだものは展示の意識が下がるので充分に見極めるよう促す。</p>
<p>()で取り上げた項目を、どんな方法で演出をしますか。</p> <p>思いを現実にするために、どんな方法を用いるのかを明確にする。場所はどんなところがふさわしいか、展示の高さ、額装、演出のための小道具などを聞き取る。全ての質問は、生徒一人一人が主体的に取り組めるような促しを行う。既成の情報に惑わされていたり、いい加減な選定である場合は、この作品について一番取り組んでいるのは、一人しかいないという意識をもたせることが有効である。</p>

(3) 鑑賞 表現 作品の展示

頭の中で考えた計画は、実際の現場に行くと状況が変わってくる場合がある。演出のきっかけとなる展示企画(面接の質問の)がしっかりしていれば、活動に支障がないことを指導する。

7 本字の指導(3/3)

(1) 本時のねらい

主体的で意欲をもって展示活動を行なわせる。(関心・意欲)

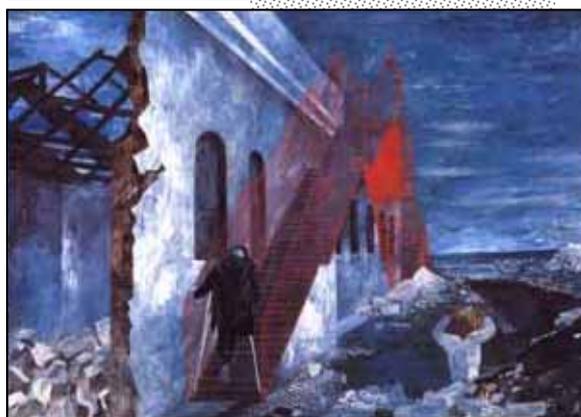
自分の意図する演出を効果的に表現させる。(鑑賞)

(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 主な評価の観点【評価方法】
導入	<p>本時の活動内容</p> <p>選んだ作品の展示活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふさわしい場所を選ぶ。 ・効果的な演出の準備の確認。 ・美しい展示を目指す。 ・名札の配布と記入・添付する。 	<p>使用できる(学校から貸し出す)用具を準備しておく。場所が重ならないように配置に注意する。教室内で確認しておくことを把握させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示場所 ・貸し出す道具の使い方(イーゼル) ・名札に明記すること <p>現場ではなく、ある程度教室内で準備をしてから展示場所に出向かせる。</p> <p>コンセプトがしっかりしていれば、臨機応変に対応できることを理解させる。</p>
5分	<p>本時の活動を理解する。</p>	
展開	<p>展示活動を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教卓から、自分が選んだ作品を持っていく。 ・展示に必要なものを借りる。 ・各自の計画に沿って教室内で展示物の演出を行っていく。 	<p>活動が一箇所に偏ると、無駄に時間がかかるので分散させる配慮をする。</p> <p>忘れ物への対応</p> <p>展示の高さや校舎内の人の動きなどを考慮して、効果的な展示を心がけさせる。</p> <p>【準備の内容(鑑賞)・活動の様子(意欲)】</p>

40分	<p>現場への移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品・イーゼル・椅子などを持って現場へ出向く。 ・人に見せるための活動であることを忘れず、美しい展示を目指す。 ・状況に応じて、計画の見直しを柔軟に考える。 <p>名札の記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示意図 ・作品解説（簡単に） ・展示責任者氏名 <p>記入が終わったら展示された作品に名札を添付する。</p>	<p>光の加減や、周りとの調和は現場でしか分からない要素である。コンセプトに従い微調整を行うよう促す。</p> <p>蛍光灯で光ってしまう場合は、角度を調整するように指導する。</p> <p>学校生活に支障が出ないように配慮させる。 （防火シャッター前・通路への妨げ・角が飛び出していて危険・水が飛んでくるなど）</p> <p>予定通りに展示できなくても、何が伝えたいかを客観的に判断し、そこが揺らがないように演出させる。</p> <p style="text-align: right;">【目的の把握（鑑賞）】</p> <p>教師は現場に出向き、状況に応じて指導をする。</p> <p>名札に書かれた内容で作品を説明しすぎないように配慮する。</p> <p>名札の位置に気を付けさせる。（作品にかからない、見えにくいなど）</p> <p>集中して活動をさせる。</p> <p style="text-align: right;">【活動の様子（鑑賞・意欲）】</p>
まとめ 5分	<p>今後の活動の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の作品を休み時間などに鑑賞しておく。 ・展示期間は自分の作品のメンテナンスを随時行っておく。 ・後片付けをする。 	<p>自分の展示に、自信と愛着を持てる活動になったかを確認する。</p> <p>メンテナンスは休み時間を使ってしっかり行うよう指示をする。</p> <p>展示期間中に作品の写真を撮っておく。</p> <p style="text-align: right;">【写真・名札（鑑賞）】</p>

8 生徒の活動から



ベン・シャーンが1949年に制作した「The Red Stairway」という作品を取り上げた2人の例をあげて説明する。この作品の展示を選択した生徒は、126人中男女各1人ずつであった。

この作品を制作した生徒は、この作品から『戦争で勝ったとしてもそれは無駄なこと』ということを読み取った。キーワードは次の3点である。「戦争に対する思い」・「一人で昇っている」・「赤い階段を強調する」その結果、展示場所は階段の踊り場。作品は、わざと縦に設定し、その下にイメージの切り抜きによるイラストとジョン・レノンのイマジンの歌詞をはりつけた。

これは女子生徒が行った展示である。戦争によって怪我をした人を読み取るまでは、上記の作品と同じである。しかし、この生徒はこの作品を擬人化し、苦勞して階段を登る絵の中の人物に、杖を差し出そうと考えたのである。

展示場所は、教育相談室の前。「どんなにつらくても、支えてくれるものがある」というのが展示のキーワードとなっている。



この円山応挙の作品の展示を行った生徒は、作者の「自然に対する考え方が書かれている書物」を読むこととなった。その「自然観」を表現するための素材や色彩を選び、その雰囲気に近い窓の外の風景を探し出して、この場所に演出を行ったのである。教室内の鑑賞の授業ではできなかった「作家の気持ちに同調する」という行為まで及んだこととなる。

さらに、この題材は演出することでは終了とはならない。展示された作品は、第三者の目に必ず触れることとなる。展示場所と演出方法は、説得力をもつものでないと説得力をもたない。作品にふさわしい場所であることと、鑑賞者が立ち入ることのできる場所が選定条件となる。何人かの生徒が、同様の場所に設定する予定を組んだが、双方の話し合いの上、よりふさわしい演出者が、そこを選んだ。結果として譲った側も、話し合いの中で新たな場所の提案を受け入れる視野をもつこととなる。



各生徒が思考をめぐらした演出は、校内に自然な形で鑑賞する雰囲気をつくる。自分と同じ作家を選んだ生徒の作品は必ず注目するが、それ以外でも展示場所や使用する素材、場所、方法などの工夫が日常の学校生活のなかで行われていた。それは、前半の学級の演出を見て、様々なことを学び、質の高いものにしようとする生徒たちの意欲の表れでもある。

5 おわりに

今回の活動の目的は、調べ学習ではなく、その作品から感じ取れることを展示に生かして実際に校内に演出を施すことである。何故、データとして資料が少ないのか、その作家の他の作品や描かれたときの時代背景などに、発想を切り替えていける柔軟さも持ち合わせてほしい。受動的な学習に慣れてしまった弊害を、感じることとなった。今後の課題としては、もっと純粋に作品を鑑賞できる環境作りをする必要があるだろう。

中学校学習指導要領解説 美術編 の中には、「自分の見方や感じ方に基づいて、美術作品などを想像力を働かせて見ることで感動や強い印象を受けたり、よさや美しさや創造の楽しさを味わったりして鑑賞する喜びを味わうことができる。」とある。このように鑑賞は、個人のものを見方を問うものである。一斉に何かを覚えて知識を増やすことが目的ではなく、自分の心がどんな感情を抱いたかを素直に表現できたとき、鑑賞の喜びを感じるのである。活動の主体者の内面に重点をおいた鑑賞活動は、個に応じた指導を充分に考えて題材の研究をし、一人一人に応じたきめ細かな指導を目指すことで、鑑賞することの喜びは成就感や自己有効感につなげることができるのである。

中学校の美術科の学習で鑑賞する喜びを経験した後は、生徒自身で生涯を通じて美術を愛好する心情をはぐくんでいけるようになっていって欲しい。そうなることこそが、美術科の本来の目標であり、我々の願いでもある。

3年 美術 個に応じた手だてシート

平成18年 月 日()

第2校時 9:35~10:35 (50分)

題材名「ダ・ヴィンチコードに挑戦」

今日の授業の目標

- ・違う環境の中で生まれた二つの作品を自分なりの価値観、受け取り方で結びつけ、もう一歩絵画に近づく

使用する教材・教具

- 教師 絵画作品、榊野浩一短歌集、ワークシート、のり
画用紙(各種類)
生徒 アクリル絵の具、筆記用具

授業の流れ

- 1 導入
モナリザのミステリーに触れる
- 2 展開
榊野浩一短歌集から短歌を選出する
- 3 展開
短歌に合う絵画を選出する
- 4 展開
二つの作品を結びつけ、物語を考えていく
- 5 展開
作品制作
・台紙を選び、選択した絵画を構成する
・短歌を絵の具で、大きさ、配色、文字を工夫して台紙に構成する
・生徒一人一人が考えた二つ物語を発表し合う
- 6 まとめ
美術科学習シートを通して自己評価を行う

個に応じた具体的な手だて

- 1 絵画の見方は人それぞれであり、多くの方法でみることができ、様々な楽しさがあることを味わわせる
- 2 多くの中から短歌や絵画を感覚的に選択しながらも、しっかり自分の中で理由を分析させる
- 3 主体的に自分の考えを伝える場面を設定する
- 4 自分の思いに合わせて、用紙や台紙の選択をする
・どのような表現方法が適切なかを支援する
・発表活動を通して、他の考えを知り、自分の表現に生かせるようにする
- 6 美術科学習シートを通して気付いたことを書く
・自分の考えを発表する

評価の規準

- 1 主題や描かれたものの意味など、主体的に作品を鑑賞しよとしている
【関心意欲態度】
- 2 作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わう
【鑑賞の能力】
- 3 作品を深く味わい作者の思いに共感したり、作品の構成や表現方法を研究している
【関心意欲態度】
- 4 感じ取った作品のよさや美しさなどの価値を、自分なりの見方で適切に表現する
【鑑賞の能力】

第3学年美術科学習指導案

1 題材名 発見「ダ・ヴィンチ・コード」に挑戦

【領域：鑑賞】

指導者

2 題材について

義務教育終了後、美術の親しみ方は鑑賞に関わることが多い。実際に制作活動の機会がなくなる一般の社会人になったときのことを考えると、むしろ鑑賞教育の方が大切だろうという声もある。もちろん鑑賞は表現とともに深められていくものであり、表現活動を通してこそ理解できるものでもある。「鑑賞指導」は、芸術文化の理解には欠かすことができないものであり、作者の意図を読み取り、精神や時代背景、文化を視覚的に学習しようとする大切な学習である。

中学生というこの時期に豊かな感覚を育て、鑑賞能力を高めいくことは、同時に豊かな表現能力の育成につながるものとも考える。自分なりの考えを発見させること、対象をしっかりと見て感じること、考えること、ひらめくこと、想像することなどと結びつけることにより、美術を少しでも将来にわたって関わられるきっかけにしていきたい。今回の授業の導入として、レオナルド・ダ・ヴィンチの描いたモナリザのミステリーを導入として、例えば、「モデルは誰なんだろうか？」「実はダ・ヴィンチの自画像ではないか？」から、絵の中の部分では「左目がしらのしこりは病気だったのではないだろうか？」「美しく組まれている手は、未完成だった」など、このような話を探したり聞いたりすることも美術を楽しむ方法のひとつであろう。

美術との関わり方は多種多様である。今回、きっかけの一つとして、生徒自身が選んだ絵画作品と「梶野浩一の短歌」を、自分なりの想像で結びつけてみることを試みた。現代の短歌は生徒たちにとって、言葉の使い方、表現の仕方、伝わり方、感じ方に共感をもてる部分が多い、語彙の比較的少ない中学生の年代にとって、短い言葉で表現する現代短歌の作家、梶野浩一の作品が共感できると考えた。

自分なりの発想や想像で二つの作品を結びつけてみる。そこに至った自分の考えを物語化して発表しあう。共感から次への興味へ、そして知識獲得から作品制作の意欲をはぐくんでいくことができればと願い、この題材を設定した。

3 育てたい能力・態度等（題材の目標）

- (1) 時代背景、国、年齢等、あきらかに違う環境の中で生まれた二つの作品を、自分なりの価値観、受け取り方で結びつけ、もう一步絵画に近づき、次の制作への意欲付けとする。
- (2) 絵画のもつ作者の思いを感じる手段として、短歌による言葉の表現力と物語を構成することにより、より印象深く感じ取る力を養うとともに国語力を高める。

4 評価の観点

- (1) 意欲的で主体的な取り組みで授業に臨む。 《美術への関心・意欲・態度》
- (2) 自分の思い・考えを具体的に構想し表現しようとする。 《発想・構想の能力》
- (3) 台紙の選択、文字の工夫、構成の工夫を凝らし、自分らしい画面構成を表現しようとする。 《創造的技能》
- (4) 絵画の良さを感じ取り、自分の思い・考えを伝え合う。 《鑑賞の能力》

5 資料について

- 絵画資料 THE GREAT ARTISTS 西洋絵画の巨匠たち
(同朋舎出版)
- 短歌資料 梶野浩一短歌集 (実業之日本社)
1968年生まれ 歌人
- 作品例 バイバイと鳴く動物がアフリカの砂漠で昨日発見された
三日ほど風邪で寝込んで久々に夢をたくさん見たので正気
真夜中の電話に出ると「もう探さないで」とウオーリーの声 等

6 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	【評価方法】
5分	モナリザ・ミステリーについて知る。	モナリザ(A4サイズ)を配布。 モナリザについて話をする。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・モデルの正体は？ ・美しく組まれている手は未完成であった・・・等 	
展開	自分が選んだ短歌を自分なりに解釈してみる。	梶野浩一短歌集から抜粋。できるだけ多く準備し選択の幅を広げる。自分の気持ちや感情に合う短歌を探す。	
		生徒の新鮮な感動・感想を大切にす	
		【ワークシート】から、出会いを大切にしているかを読み取る。	
	梶野浩一短歌集から		
	<ul style="list-style-type: none"> ・バイバイと鳴く動物がアフリカの砂漠で昨日発見された ・他人への怒りは全部悲しみに 変えて自分で癒してみせる ・前向きになれと言われて前向きになれるのならば悩みやしない・・・等 		
作品の選択	できるだけ多くの絵画作品を用意し生徒の個性が表れやすいように準備する。		
短歌に合う絵画を探す。	ここで、本時の活動を具体的に伝える		
	短歌の中から、絵画と結びつけるキーワードを探す		
例	「バイバイと鳴く動物」をキーワードに、最後の悲しみというイメージでダリの「記憶の固執」を結びつけた		



短歌と絵画を組み合わせ物語を作る。

発表するための作品作り。

- ・台紙(画用紙やボード)を自由に選択し絵画を貼る。
- ・自分の選んだ短歌を画用紙等に絵筆を使い絵の具で強調などを考え色分けをしたり、大きさを工夫したりしながら書き、台紙に貼る。
- ・自分なりの解釈で物語を考える。台紙に貼る。

キーワードや選んだ絵画についてワークシートに記入する。自分の感じたことを言葉にする。なぜ?選んだ理由を言葉にする。また感じたことを言葉にし伝えることができたか。

短歌と絵画を組み合わせ自分なりの物語を想像させ構成させる。

自分なりの解釈の仕方では絵画を楽しむことができたか。



台紙のための用紙の選択をさせる。(多くの種類の台紙を準備する)

絵筆で書かせることにより、また、色を工夫することにより個性的な発表ができるようにする。

物語を考えさせる。いかに説得力のある物語にするかアドバイスを個々に行う。

ワークシートを完成させる。

まとめ

発表会や展示をして、友達の考えを認め合う。
自己評価。

発表方法を考える。

自己評価の記入をさせる。

5分

評価項目	自己評価
意欲的に活動できた。	5・4・3・2・1
自分の思いを表現できた。	5・4・3・2・1
もっとたくさんの作品を見たいと思った。	5・4・3・2・1
授業満足度	5・4・3・2・1

①短歌の選択

「杵野浩一短歌集」から一つ選ぶ
短歌の選択方法については特に問わない

- ・ 自分で読んで感動したもの
- ・ 何か感じるものがあり、共感したもの など

【なぜ短歌か？】

「杵野浩一」Profile

1968年東京生まれ。歌人。短歌、作詞、現代詩
漫画家、小説、脚本など、幅広く執筆活動をしている。
95年、角川短歌賞の落選作がテレビや雑誌で話題になり、
初の短歌集『てのりくじら』はロングセラーになる。
短歌指導にも定評があり、NHK「ようこそ先輩」での
授業は大反響を呼んだ。

②絵画作品の選択

自分が選んだ杵野浩一の短歌に
合う絵画作品を探していく

生徒の感性と杵野浩一の短歌が
ぴったりと合うものがある。言葉
の使い方や表現の仕方などに共
感する部分が多い。語彙力が不足
している中学生にとって、短い言
葉で表現していく短歌が最も表
現しやすいものである。

④発表方法の工夫 ③絵画と短歌の組合せ

短歌と絵画を組み合わせた理由を考え、まとめていく。

短歌と絵画を組み合わせた作品を制作（効果的な台紙の選択）

短歌を書くための用紙の選択、文字の工夫（色、形、大きさ）

画面構成の工夫

生徒一人一人が自分の感性で時代や国が異なる二つの作品を結びつける。

国語科で学習した内容を確認しながら、短歌の持つ魅力を再発見する。

お互いの作品を発表することにより、様々な絵画の魅力を再発見する。

